

令和3年7月 月例会 山行報告

しんつくし山岳会

月 日	令和3年5月16日(日)	天 候	雨のち曇り(50%)
山 域	那珂川市の西の山々(脊振ダム方面)	気温30.8°、湿度65% 山頂風速20m	
目 的	昔の脊振山への最短道を探して(鏡岩経由)	体力2、技術2	
交通手段	車……	L	森……
メンバー	計7名		

行 程

西鉄那珂川営業所(9:00)-----市役所で着替え-----江 氏と合流-----岩戸神社(9:30~10:00)文政13年(1830)、盃状穴、菊の紋、大日如来像、築地姓(部落全部の氏名47名)の表示板、山神社文政2年(1819)歩きづらい階段、イボ地藏(指事文字)……芋生川に7mの滝あり……鏡岩(11:05)……日本製紙社有林(34ha)……杉林で昼食(12:20~14:40)……等高線の複雑な谷間をトゲのある藪をかき分け最大の難所を通る……檜の木畑鉄塔山頂(748m)風速20mで脊振山は見えぬ……大丸山(大雨)……亀岩……矢吹岳(14:10)……最大の急降下の危険箇所ロープ1本あり……峠(15:05)……「ぬた場」猪の洗い場……鷲が岳454m(15:30~16:45)……登山道から外れた山路、間違えた道を通る鉄塔(16:45)……岩戸神社(戸板の神社)17:05到着、解散

内 容

天照大神、神功皇后、鷲が岳(大友と龍造寺隆信、筑紫広門の合戦)の場所をロマンと山城を訪ねて歩きました。雨の中、靴も汚れ、雨カッパも一日中着て、滑ったりで奮戦苦闘の山行でした。

まず天照大御神が弟の須佐之男命の乱暴に腹をたてた大御神が岩戸に隠れたため、この世が暗闇になった岩門である。この神社の歴史を見るとロマンとしきたりが浮かびます。盃状穴は子孫繁栄、死者蘇生……古代祭器、近くのおばあちゃんに聞いたからお乳が出るようにと聞きました。鏡岩も神功皇后が脊振山に登られるときに休憩されて髪を整えられたとの説もあります。山の中で雨で水が流れている谷間を歩いていると、もしかこれが道ではないかと想像した。等高線が複雑でトゲをかき分けながら最大の難所を通る。

ようやく鉄塔の山頂(747m)に着いた。風速20m位で脊振山も見えず小雨ですぐに引き返した。

下山は別の稜線を通り、王丸山に差し掛かるとひどい雨で山の成り立ちを説明して通過する。亀の岩をすぎ、矢吹山に着いた。人の名前で平成13年頃付けたようです。ここから下りで急降下でロープが1本あるがその下は捕まえる木がない。滑りながら皆方々に分かれて下って行った。最大の危険場所であった。ここは慣れた人と行くべきで別に登山ルートは遠回りしていく道もある。

ここから稜線に登ると「ぬた場」があった。猪も体に着いた虫を洗い出す絶好の風呂場だ。伐採された杉林があちこち見られる。登山道も~~水~~を渡ったり以前の道がわからなくなっている。最後の鷲が岳(454m)に着いた。大友五城の一つで、天正7年(1579)大友氏(大鶴九郎鎮正)と龍造寺隆信の兵、筑紫広門との兵6000余との戦いで城の命の水の手を切られ、鷲が岳は落城。在城したのは40年位であった。

「大友五城」宝満・岩屋城、立花城、荒平城、柑子岳城、鷲が岳城。

下りは途中伐採した道がぬかるんでいたため、山の中に入るが、道を間違えて木に捕まる所もなく滑り易く苦難した。稜線に出てようやく鉄塔で晴れ間になり、はるか市内の景色が見えてきた。戸板神社に着いたのが午後5時過ぎていた。7人の協力で難関を突破できた事は最大の収穫でした。お疲れ様でした。

南面里の枝村に「戸板の大戸」

森]

「筑前国続風土記」には「南面里の枝村に戸板というところがあり、ここは本村よりやや高地で、ここに大岩がある」と記されている。その村に高さ3間半(約6.4m)、根の広さ8間2尺(約15m)の大岩があり、岩戸とよばれている。

この大岩が天照大御神がお籠りになった「天の岩戸」の片方だと伝えられている。もう片方は近畿大和(奈良県御所市)国の宮戸村片戸明神にあると記されているが詳細は判らない。この扉は南面里の戸板山神社のお堂の背面にある大きな岩で、この面の北面に高さ1.54mの磨崖仏の大如来が線彫りで彫り込まれ、磨崖仏の横に山神社の神殿があり、それと並んで地藏尊の御堂がある。外側に「いぼ地藏」の石が建っている。正面にあたる長押に花卉16枚の菊花の紋章が刻んであります。天井下の板壁には全世帯の築地姓の名前が家族全員板に掲示されており、現在7件が居住されています。

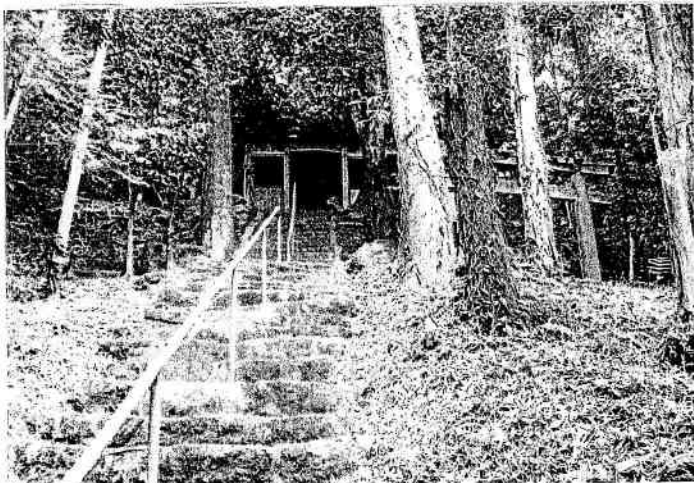
最初の石段の両側には常夜灯が建っているが、石面に文政庚寅年と刻んである。それは文政13(1830)年のことである。境内の62段の階段を上ると、石段は途中から二筋に分かれ、右側の参道には文政2(1819)年と刻んだ鳥居が建っている。階段途中左側に御手水石があります。その石にはおよそ50個の穴が掘ってある。

「盃状穴」子孫繁栄や死者の蘇生——古代祭祀に用いた

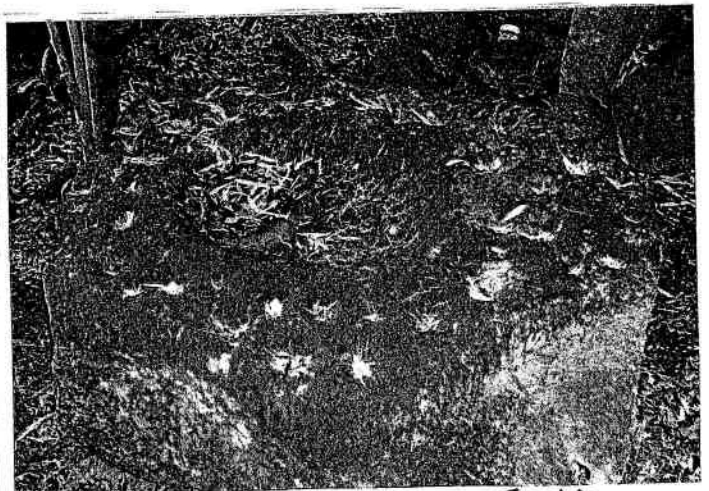
芋生川を渡ると南面里の「枝村の戸板」に入ります。このあたりは道の岐路となり、里の家から右側の道を登って行くと鏡岩を通過して脊振山へ行く道でもあります。今では危険で道も判らなくなっています。戸板越からは驚ヶ岳城へ通じる道でもあります。南面里の下方の集落は岩戸村と呼ばれていた。岩戸村や岩戸小学校はこの天の岩戸の神話に由来すると伝えられています。

参考：岩戸

江戸時代以前は岩門と書かれた。弟の須佐之男命(スサオノミコト)の乱暴に腹を立てた太陽の神様である天照大御神(アマテラスオオミカミ)が天の岩戸に隠れたため、この世が暗闇になった。困った神様たちは天の岩戸の前で祭りをを行い大騒ぎをした。この騒ぎが気になった天照大御神がわずかに扉を開いたところ、力持ちの神様であるタジカラオノミコトが扉をこじ開け、世の中に光が戻ったという神話がある。



戸板の神社



御手洗石に数個の彫った盃状穴

鷲ヶ岳城址（標高454m）（大友五城の一つ）

森

1. 「鷲ヶ岳」の名称の由来……古来高くそびえる山には鷲が住んでいるのでそう呼ばれた。鷲ヶ岳城ができる前から「鷲ヶ岳」と云われていた。城が出来る前から人が住んでいたと伝えられており、少弐が築いた砦があったが、修験者の修行の場だったかと思われる。
2. 名称由来……福岡藩医の高木空洞が天保15年（1844）古湯温泉に湯治に行ったとき、紀行文に「鷲のような峰が両国にまたがる」と記していることから、山の形から「鷲ヶ岳」と云われた。
3. 鷲ヶ岳城は何度も改築がなされたと思われ、現在城に行くと3段の石垣が残っていて、瓦も出土しているので、瓦屋根の建物があり戦国末期まで使われた城である。本丸、二の丸、三の丸と石積、曲輪がはっきりと残っている。山上の本丸には大きな礎石も残り、旗立て石には丸い孔が刻まれ、瓦も散乱している。城址は登ると幾段にもなっている石垣も残る。風呂の谷、馬攻め谷、延元寺跡（延長寺）等がある。
4. 天正7年（1579）10月24日竜造寺隆信の将太田兵衛は3000余を率いて鷲ヶ岳城に攻め入った。一の岳城主筑紫広門と計り6000余の兵と鷲ヶ城を攻めるため南面里に陣を敷いた。
鷲ヶ岳の急を聞き岩屋城主高橋紹運は大鶴宗雲久衛庵のために、山田山に陣を取り龍造寺と対峙した。その間、筑紫広門と密約していた秋月種実は5000余を率いて岩屋城に攻めた。岩屋城は紹運の留守の間に秋月種実の軍に攻められ、紹運は岩屋城の危急を知り走り返っている。なおこの天正7年は龍造寺の軍が大挙、三瀬峠を越えて筑前博多の街に進出してくる年で、この時小田部鑑元紹叱（大友早雲の次男）が守る早良の荒平城も龍造寺の軍によって攻略されている。
5. 天正9年（1585）再び、龍造寺・筑紫の4500余の攻め手が急坂を一気に攻め上がり隙間なく囲み昼夜を問わず鉄砲攻撃をかけた。また余勢で城の命の水の手を切られ鷲ヶ岳城は落城、この激しい攻撃に「宗雲」は開城し城を降りた。
6. 鷲ヶ城の西側に王丸山があり、そこに鷲ヶ岳城の元の城があったとも云われるが、地元の人「王丸山に城はなく、直径15m位の池があり鷲ヶ岳城の水源になっていた」という。そこから水を汲んでいたが、その水源をやぶられ落城したという。そこには水屋を守る番所があった。
後に、王丸池は南面里村の雨乞いの場となり、村人たちは池をかき回し泥を投げつけ合うと雨が降ると云われた。
7. 「大友五城」
宝満・岩屋城（高橋紹運）、立花城（立花道雪）、荒平城（小田部紹叱）
柑子岳城（臼杵・木村）、鷲ヶ岳城（大鶴鑑尚）



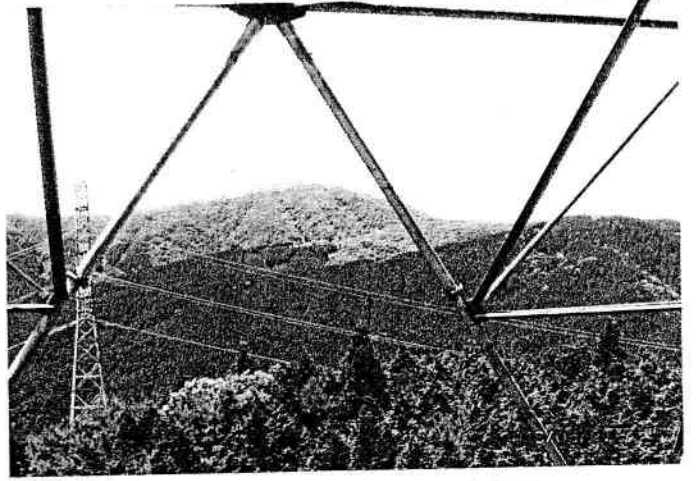
大日如来像



鏡岩



檜木畑の地名



鉄塔 (747m) からの脊振山



十条製紙 (現日本製紙) 社有林



大丸山 (707m)



ぬた場



鷲が岳 (454m)